

第54回公募

全書芸展

後援・文化庁・東京都

主催 全日本書芸文化院

<https://www.z-shogei.co.jp>

—無鑑査・公募—

第54回 全書芸展表彰・入賞

国立新美術館 2B・2C・2D

令和7年12月11日(木)～22日(月)

無鑑査漢字

文化院大賞

(I部臨書) 埼玉県今井彩香

文化院準大賞

(I部創作) 千葉県篠田皓月

(I部臨書) 千葉県八代千華

(II部臨書) 福島県佐藤陽菜
埼玉県関口珠恵

(II部創作) 北海道大城千民
千葉県野田良子

以上展覧会委員推举

文化院奨励賞

(I部臨書) 千葉県宮村加邨

千葉県鶴岡美風
東京都初川雅翔
東京都田中陽泉
神奈川県川原和穂

文化院準奨励賞

(I部創作) 神奈川県西山問岳

山口県眞砂鳩宗
神奈川県中澤良樂

(I部臨書)

茨城県小菅玉蘭
千葉県平野竟茜

埼玉県矢代良雲
千葉県坂本葉月

埼玉県加藤操天
千葉県伊藤春玄濤

東京都岡山操天
埼玉県小川春玄濤
千葉県伊藤春玄濤

埼玉県荒川操天
千葉県荒川操天
埼玉県谷操天
神奈川県河本操天

東京都野川操天
神奈川県川島操天
茨城県川島操天
神奈川県浅野操天
神奈川県川原操天
東京都田中操天
東京都初川操天
千葉県鶴岡操天
千葉県宮村操天
(I部臨書) 千葉県和穂操天

東京都平井静光
北海道森恵咲

(II部臨書) 千葉県大西政子
香川県矢野美智子
長野県早川伸子

千葉県新井抱山

茨城県神永花瑠

無鑑査かな

(II部創作) 香川県藤井美栄子

(II部創作) 東京都柳沼白峰

(II部創作) 静岡県笠井燿谷

(II部創作) 北海道川合容子

(II部創作) 東京都石井桜花

(II部創作) 千葉県井口加扇

(II部創作) 愛知県源川梨花

(II部創作) 東京都石井桜花

(II部創作) 千葉県井口加扇

(II部創作) 愛知県源川梨花

文化院大賞

(I部創作) 東京都千葉恵美子

文化院準大賞

(I部創作) 埼玉県林北垂

文化院奨励賞

(I部創作) 神奈川県小泉純子

(I部創作) 東京都田中俊江

(I部創作) 東京都倉康風

(I部創作) 神奈川県川添文夏

(I部創作) 神奈川県森慶子

(I部創作) 東京都川口智子

(I部創作) 東京都坂本葉月

玉川堂賞

以上展覧会委員推挙

(I部臨書) 千葉県風戸惠泉

(I部臨書) 長野県春日三枝

文化院奨励賞

(I部創作) 神奈川県川添文夏

(I部創作) 神奈川県森慶子

(I部創作) 東京都川口智子

(I部創作) 埼玉県坂本葉月

玉川堂賞

(I部創作) 埼玉県車田杏霞

(I部創作) 東京都阿部光逸

(I部創作) 千葉県八代千華

(I部創作) 千葉県向山智恵子

一照堂賞

(I部創作) 東京都岩本章子

一照堂賞

文化院準奨励賞

(I部創作) 神奈川県松本美香

(I部創作) 神奈川県小野美登里

(I部創作) 東京都大石多慶子

(I部創作) 神奈川県高木悦舟

(I部創作) 東京都鈴井美知子

(I部創作) 北海道大城千民

(I部創作) 埼玉県伊藤冷玉

(I部創作) 東京都大石多慶子

(I部創作) 神奈川県小泉純子

(I部創作) 東京都倉康風

(I部創作) 神奈川県川添文夏

(I部創作) 神奈川県森慶子

(I部創作) 東京都川口智子

(I部創作) 東京都坂本葉月

玉川堂賞

(I部創作) 埼玉県石黒栄子

一照堂賞

(I部創作) 香川県向山智恵子

第五十四回
全書芸展入賞

第 54 回 全書芸展役員出品者一覽

(順不同敬称略)

第 54 回 全書芸展出品者一覽

無鑑查 I 部

無鑑查Ⅱ部

第 54 回 全書芸展出品者一覽

第 54 回 全書芸展出品者一覽

公募Ⅱ部

漢字

第 54 回 全書芸展出品者一覽

公募Ⅱ部

か
な

一字書部門

萩原	京	渡邊	天草
佐藤	翠湖	翠風	玄峰
満田	游翠	臨	能尊生者雖貴富不以養傷身。
吳田	裕子	近得書帖	
黒川	喜代	秦王深居不得近 從破衡成欲誰信：	
櫻井	真琴	冬枯れのすさまじげる山里に月のす…	
浦石	洋	初夢のおもひしことをみざりける…	
板倉	繫洋	洞庭西望楚江分 水盡南天不見雲…	
山田	勝子	ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔のうへ…	
山室	良峯	眼者身之鏡。耳…	
渋谷	絹子	山にはさくら海女をしずめて海の紺	
小島	石塚	攻玉	
板倉	絹子	臨 開通褒斜道刻石	
竹内	祥泉	臨 好太王碑	
松本	里佳	花散らで月は曇らぬ：他一首	
米野	鴻雪	慟哭	
須田	光彗	むらさきの睡蓮の花はのかなるいきし…	
淺沼	貞城	臨 張猛龍碑	
高井	千畦	紛紛五代亂離間 一旦雲開復見天草木百…	
吉原	啓雪	うたなねに恋しき人を見てより夢て…	
岩田	青園	みよしの、山の秋かぜ小夜ふけてふる…	
北村	芳蘭	下紅葉かつ散る山の夕時雨濡れてや…	
西寫	澄子	臨 論經書詩	
橋爪	鳳雪	峨眉山月半輪秋影入平羌江水流夜發清…	
小山	桐佳	雲ひとひら月の光をさへざるは 白鷺…	
田宝	玉翠	さくら花ちりぬる風のなごりには水な…	
茜琇	瑞峰	臨 書譜	
菊地	紅春	雪ふれば峰のまさかきうづもれて…	
	臨	金臺墨渴朝揮洒 銀燭花消夜校讎	
	臨	温泉銘	
	臨	祭姪文稿	
	木簡		

竹下	明雪
大澤	玉翠
川嶋	坡景
工藤	文園
五井	修水
久田	房子
千葉	翠豊
村上	臨
宮本	懷素草書千字文
津村	澡秋
根岸	五色霧雲開鳳尾
小野	九重麗日繞龍鱗
石橋	巴陵一望洞庭秋
田中	日見孤峰水上浮
樺田	聞道神……
奥村	廂雨
村瀬	邊地鶯花少
櫻田	年來未覺新
佐藤	美人天上落……
楓	桂萩
奈巳	煙濕空林翠飄渚
菜穂	花汀草共蕭蕭仙家應……
玉桜	孤嶂臨滄海
容齋	千山湧大江……
笠舟	天祿永昌
高木	山ざくら我が見にくればはるがすみ峯……
山崎	山門頌
高橋	雪積みて木も分かず咲く……他一首
杉本	雖篆隸草章
山口	工用多變
山口	濟成厥美……
松光	深山臥龍
玲光	臨
善子	懷素藏真帖
吉川富久子	田子の浦にうち出でて見れば……他九首
伊丹翠光	臨
高橋春陽	始平公造像記
山根永田	鳳飛九千仞五章備珍銘書且虛歸空入……
弘子洋子	吹くからに秋の草木のしをるればむべ……
佐藤佐和	草枕旅行く君をうはしみたぐひてぞ……
井川	蘭亭納紙入昭陵世間遺迹猶龍騰
菊池	般若波羅蜜多心經觀自在菩薩行深般若……
佐藤	秋の月光さやけみ紅葉ばのおつるかげ……
彩明	君がため春の野にいでて若菜つむわが
臨	天の原雲なき夕にぬばたまの夜渡る月……
史晨碑	よ

總務		鳥越 郁子	中島 安恵	北原 滄秋	直井 みさ
中島由希代	豎琴	あまつ風雲のかよひぢふきとぢよ乙女…	朝顏は朝露負ひて咲くといへど夕影に…	池水に影さへ見えて咲きにはふ馬酔木…	漁翁夜榜西巖宿曉汲清湘然楚竹煙銷日…
遠藤史伯	太鼓	やどりせし人のたみか藤袴わすられ…	敵艦見ユトノ警報に接シ連合艦隊は…	藏深葉	
田中奏風	太鼓	樂靜渾忘倦	こひわひてうちぬるなかにゆきがよふ…		
櫻田東龍	太鼓	臨詩懷紙	嵬然不動		
三上陽風	太鼓	うづもる、雪のした草いかにしてつま…			
会田東鶴	太鼓	天邊樹若齋	臨鄭義下碑		
青島瑠石	太鼓	獨坐幽篁裏彈琴復長嘯深林人不知明月…	敵艦見ユトノ警報に接シ連合艦隊は…		
秋元土龍	太鼓	主人不相識偶坐為林景。莫謾愁沾酒囊中…	こひわひてうちぬるなかにゆきがよふ…		
秋山彩翠	太鼓	けむりともくもともならぬみなれども…	嵬然不動		
秋山良枝	太鼓	いづくへか帰る日近き…			
秋山圭香	太鼓	盡日に雲を望めば心繫がれず時有りて…			
秋山彩流	太鼓	臨仙壇銘告題字			
秋山萬陽	太鼓	臨李嶠詩殘卷			
荒川麗泉	太鼓	遠上寒山石徑斜白雲生処有人家停車坐…			
荒川龍美	太鼓	蠅牛角上爭何事…			
飯田柴景	太鼓	寒郊桑柘稀秋色曉依依野燒侵河斷山鶴…			
飯田蕙風	太鼓	臨爭坐位文稿			
石井芳柳	太鼓	常觀靜處光陰好。亦恐閑時思慮多。			
石井澄翠	太鼓	木がくれて物をおもへば空蟬の羽にお…			
石橋紀代子	太鼓	わが庵はみやこの辰巳しかぞすむよを他一首			
石丸詠峰	太鼓	むらさきの一本ゆゑに武藏野の草はみ…			
井田璃石	太鼓	わが庵はみやこの辰巳しかぞすむよを他一首			
市川蕙泉	太鼓	臨玄祕塔碑			
	十七帖				

佐藤翠峰	下田美智子	梅の花散らまく惜しみ、わが園の：
柴田彩舟	杉 東苑	なつのはまだよいながらあけにけり…
	杉本 芒玲	葉聲落如雨 月色白似霜 夜深方獨臥…
須田凌丘	須藤美紀子	かくてこそみまくはしけれ萬代をかけ…
瀬波雪華	五月女寿郷	青燈暮雨殘詩帖 明月蒼松舊庵
	高橋玉堂	疎風影動林梢月 宿雨涼生櫻外山
高橋高橋	高橋萃香	清晨入古寺初日照高林曲徑通幽處禪房…
高橋高橋	高橋美江	物各有主苟非吾之所有雖一毫而莫取…
滝口	滝口蘭邦	春日山おして照らせるこの月は他二首
	玲石	仙客來遊雲外嶺神龍棲老洞中淵雪如純…
滝澤	朱美	見渡せば春日の野邊に霞立ち咲きには…
竹内	田島三沙	山ふかみなほかげさむし春の月そら…
多田豊美	多田臨	李太白憶旧遊詩卷
田中紫水	田中蘇星	臨 雁塔集王聖教序
田中瑞保	田中夢瞬	溪冰寒權響
寺坂一燈	寺坂瑞保	草枕 旅行く人も行き触れば…
十枝麗月	十枝惠琴	おもひつ、ぬればや人…
豊田柏翠	豊田臨	鄧完白隸書座右銘
内記瀬秋	内記既飲旨酒	既飲旨酒 永錫難老
中尾仙桃	中尾臨	鄭義下碑
中川英雪	中川臨	張玄墓誌銘
中川光葉	中川臨	楓葉経霜紅
西村珠香	西村臨	裴將軍詩
根本淳子	根本	やまとちのるりのみそらにたつくもは…
鳩山えり子	長澤	みやこにも旅なる月の影をこそ…
静子	中川	三輪山をしかも隠すか雲だにも心…

展览会委员

深澤	平賀	惠風	臨 李嶠詩
松坂	淳子	木洩陽の風に動けば庭に布く苔のみど…	
素亭		樓倚霜樹外鏡天無一毫南山與秋色氣勢…	
紀慶		春が來た水音の行けるところまで	
松永	蓼彩	痩竹藤斜挂幽花草亂生林高風有慙苔滑…	
見上		林間松韻 石上泉声 靜裡來識天地自然鳴…	
美野		春と秋と行きかふ空の通り路はかたへ…	
宮川	瀛邦	轟邦	
都田	秀園	臨 鄭義下碑	
向山	芳川	峨眉山月半輪秋影入平羌江水流	
山岸	虹鮮	臨 自叙帖	
山口	習明	臨 鄭義下碑	
山村	絅翠	臨 紗奴帖	
山崎	紫桜	臨 争坐位稿	
山村	晃翠	臨 松風閣詩卷	
山本	知子	秋耕やこの土地の香は太古より	
鎧水	由井	見渡せば松の葉白きよしの山幾世…	
横川	朱梢	臨 木簡	
吉田恵利子	若井	臨 自叙帖	
爽秋	若林	臨 李嶠詩	
東貞	若原	臨 葉子侯刻石	
笙韵			
秋山	茜鳳		
阿部	臨 鄭義下碑		
五十崎	江彩		
石川	沾雨		
磯崎	綾子		
磯田	春汀		
井上	如風		
打良木	悅子	夏と秋と行きかふ空の通り路はかたへ…	
円館	稀峰	臨 九成宮醴泉銘	
紫月		臨 竹山連句	
大澤			

大澤 太田 翔鳳

岡村 麗珠

美邦 月華

孤舟暮歸去別路 江南樹
臨 鄭義下碑

臨 曹全碑

梢紅 片山

臨 大吉買山地記

小川 長田 宣子

いろふかき三山がくれのもみじばを…
うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

金澤 金子 勝田 千鶴子

薰風 妙泉

臨 李嶠詩

延年壽命長

兼丸 加納 純香

故園眇何處 虞方悠哉淮南秋雨夜高齋…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 美人董氏墓誌銘

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

片山 片山

いろふかき三山がくれのもみじばを…
うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

長田 長田 宣子

薰風 妙泉

臨 李嶠詩

延年壽命長

河端 鴨田 浪秋

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

兼丸 加納 純香

故園眇何處 虞方悠哉淮南秋雨夜高齋…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 美人董氏墓誌銘

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

薰風 圭琇

臨 李嶠詩

金澤 金子

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

長澤 啓子 竹芳

おのづから音する人ぞなかりける山め…
たぐひなき花の姿を女郎花池の鏡に映…

中澤 美奈子 芒瑩

たちわかれ いなばのやまのみねに
春がすみたつやおそきと山川の岩間を…
うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

中澤 美奈子 芒瑩

うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…
うち霧し雪はふりつつしかすがに吾家…

委嘱役員小品

橋崎

華祥

草の戸も住替る代ぞひな家の家

堀良

天鵝

古池や蛙飛びこむ水の音 苗蕉の句

辻暢

躊躇

わだみの青海原はひさかたの月澄み渡ると…

愚

洗心

わだみの青海原はひさかたの月澄み渡ると…

秋夫

一滴となり 驚下りる

わだみの青海原はひさかたの月澄み渡ると…

間中至楽

瑞氣満梅花

くわなみの八重り匂玉はすの花びら動きわたるかも

静香

鳩山

さてどちらへ行かう 風がふく 山頭火

楓

尚洋

故天異臨子

春峰

尚苑

おきふしを風にまかせてすなおなる…

移山

懷遠

おきふしを風にまかせてすなおなる…

行雲

夢

おきふしを風にまかせてすなおなる…

閣亭

東浦西没

おきふしを風にまかせてすなおなる…

大久保樹心

伸眉

おきふしを風にまかせてすなおなる…

福山

弘琴

おきふしを風にまかせてすなおなる…

吉川

伯雲

おきふしを風にまかせてすなおなる…

若原

敦子

おきふしを風にまかせてすなおなる…

吉川

山口

おきふしを風にまかせてすなおなる…

佐野

邦雪

おきふしを風にまかせてすなおなる…

嶋村

珠扇

おきふしを風にまかせてすなおなる…

瀬口

昭鳳

おきふしを風にまかせてすなおなる…

高田

茂美

おきふしを風にまかせてすなおなる…

瀧野

朋子

おきふしを風にまかせてすなおなる…

対馬

朴谷

おきふしを風にまかせてすなおなる…

積田

智子

おきふしを風にまかせてすなおなる…

常泉州

玲玉

おきふしを風にまかせてすなおなる…

第五十三回展
展覧会委員入賞

代表賞

岩本	か	漢	小野田	か	漢	小野田通平賞	か	漢	小野田通平賞
打良木	な	登賞	吉田	な	福原	昭賞	直井	な	櫻田
悦子	利子		恵利子	瑞鳳			田中	みさ	北原

第五十二回展
展覧会委員入賞

代表賞

岩本	か	漢	小野田	か	漢	小野田通平賞	か	漢	小野田通平賞
大戸	字	登賞	田中	な	櫻田	昭賞	菊池	な	永田
美芳				奏風	東龍		佐藤	井川	河合

第54回 全書芸展について

昭和47年第1回開催(初期は役員展として実施)

社中の偏重がなく、審査は厳正・公平に投票制でおこなわれる

(審査員は日展・毎日・読売・サンケイ・独立等関係者多数)

○出品点数: 1,083点

○部門 ■公募: I部(聯落~3×6尺)=全書芸賞・秀作・佳作

II部(半切以下)・一字書部(全紙1/2)=推選・秀逸・優作

公募部門トップに文部科学大臣賞、次点に東京都知事賞を授与

■無鑑査: 本院の師範位及び無鑑査委嘱者(全書芸賞2回受賞)

大賞・準大賞・奨励賞・準奨励賞・玉川堂賞・一照堂賞

■展覧会委員: 代表賞(対象: 運営総務)

社長賞(歴代)一小野田通平賞(対象: 総務)

小野田昭賞(対象: 常任理事)、岩本登賞(対象: 理事以下)

○外部審査員 比田井和子(天来書院会長)

【主催: 全日本書芸文化院】

比田井天来・田代秋鶴・尾上柴舟の門人を中心に昭和25年創設

会長 桑原翠邦~昭和46年

以降代表制となる 二宮景雲・高澤南総・田上帶雨・堀愛泉・金満総峰・平林香園

富永秋山・植崎華祥・堀天鶴・大倉谷山・目良丹崖 現代表 吉田薈風(令和5年~)

月刊誌「書宗」創刊、昭和47年「全書芸」に改題 一般版/学生版/ペン全書芸

古典重視の純正書道を標榜 他に、書初大会・全国書道コンクール等開催

近世大家遺墨

展示作品は令和六年度全書芸誌鑑賞ルームに掲載されたもので

○桑原 翠邦^{トモヨシ}豊

一九〇六～一九九五 北海道の帯広市に生まれる。名は清美。翠邦は号で魚目とも号した。札幌鉄道局教習所在学中より大塚鶴洞に師事。川谷尚亭、比田井天来北遊の折それぞれの知遇を得る。昭和七年、天来のすすめで上京し、書学院教授となる。天来の命を受けて中国に渡ること二回。昭和二十五年から本院創立より二〇年余り会長を務めた。昭和四十七年東宮御所へ書道のご進講の命を拝した。

魚目臨

○比田井小琴^{トモヨシ}いさかのきずなき玉もともすればちりに光を失ひにけり
もと子謹書

一八八五～一九四八年 東京日本橋に生まれる。本名元子、小琴はその号。師は御歌所寄人の阪正臣。夫は天来。伝統的なかなを学ぶとともに、天来の影響を受け古碑法帖を学び、確かな骨格をもつた正建な独自のかなを生み出した。掲載の作品は明治天皇の「玉」という題で詠まれた一首を書いたもの。明治天皇は生涯で九三〇三二首もの和歌を残され、「明治天皇御集(上中下巻)」が大正十一年に文部省より刊行されている。掲載の和歌は「卷中」に収められている天皇五十五歳の時の和歌である。

○丹羽 海鶴^{トモヨシ}南登杜陵上 北(望)五陵間 秋水明落日 流光滅遠山
北下脱望

一八六三～一九三一 岐阜県恵那に生まれる。名は正長、字は寿卿。幼少より書を学び、長じて郷里の小学校の教師となる。二十八歳の時、たまたま日下部鳴鶴の遊歴に遭い、その書風と見識に魅了され翌年上京し入門した。内弟子とし寄遇すること七年、瞬く間に心技ともに進歩し一家を成した。學習院、東京高等師範の講師、文檢の検定委員等を歴任した。鶴門の双璧と称された比田井天来と親交深く、共に剛毫筆により書の研究を深めた。

○比田井天来^{トモヨシ}君賢臣忠國之盛也 父慈子孝家之盛也

天來象之

○近藤 雪竹^{トモヨシ}五十鈴川水 洋々萬古流 瑞雲籠太廟 光被是神州

賦得河水清 雪竹富壽

一八六三～一九二八年 戸江に生まれる。名は富寿、字は孝卿。幼時より学問を好み漢籍を学んだ。書は一六歳の時、日下部鳴鶴の門に入り、かたわら嚴谷一六の益を受けた。殷周から漢魏六朝、唐宋明清に至るまでの古碑法帖、名跡を巾広く研究し一家を成した。鶴門四天王の一人。多くの書道団体の役員や審査員を歴任し、書の近代芸術としての地位の確立に貢献した。

○田代 秋鶴^{トモヨシ}閑居遠世俗 獨月守其愚 乘興時描寫 梅花雜詩 癸酉玄月 鶴堂先生兩政 秋鶴散人其次

一八八三～一九四六年 長野県出身。上篠家の二男に生まれ、後に田代家に入る。名は其次、字は仲仁。別号に五千石道人がある。東京音楽学校卒業後、音楽教育に取り組むかたわら丹羽海鶴につき書を学ぶ。日下部鳴鶴にも益を受けた。渡辺沙鷗、比田井天来等と親しく交遊した。貫名菘翁に私淑し、その書が顔法、褚法から成り立っていることを知り、その書法の研究の専念し一家を成した。

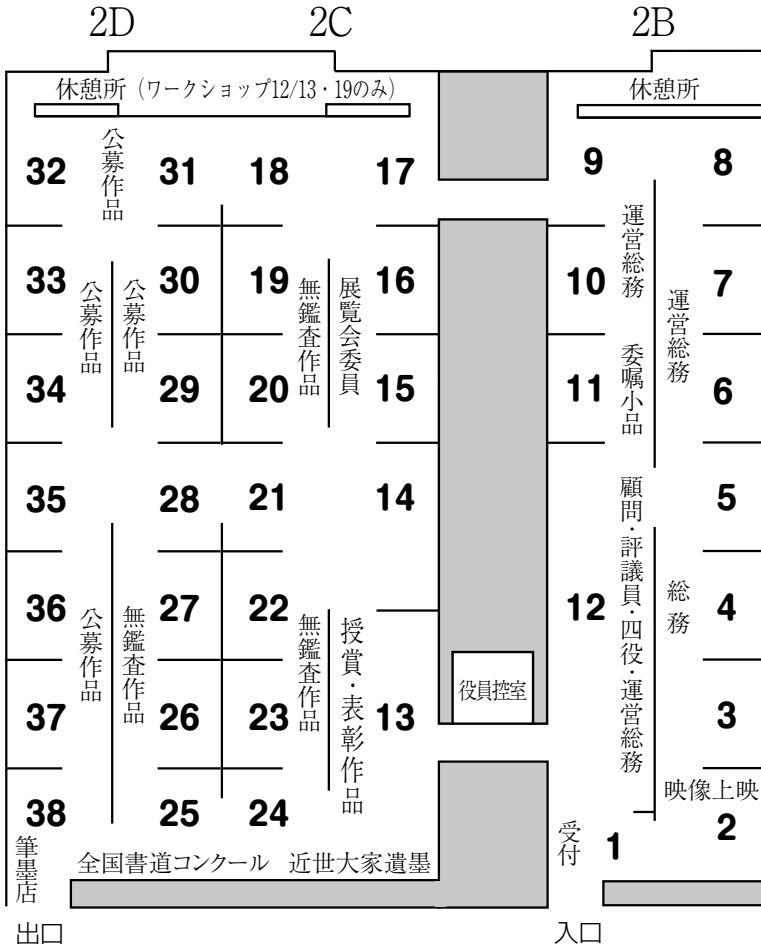
○川谷 尚亭^{トモヨシ}梵王宮在層峰頂 古木回巒路欲迷 過盡石梁攀盡坂 聾聲猶隔白雲西

一八八六～一九三三 高知県安芸市の出身。名は賢三郎、字は大道。号は尚亭。横山逸民、雲弟の別号も用いた。兄横雲のすすめで近藤雪竹に師事した。雪竹の師、日下部鳴鶴より雪竹門の麒麟児と称されるほど若からその才能を認められた。大正七年に上京し多くの書家と交わり大きな影響を受けた。特に天来とは親しく共に「古法」を研究し独特の清新高雅な書風を作り上げた。四十八歳の若さで没したのが惜しまれる。

○尾上 紫舟^{トモヨシ}しづやかに月は照りたり天地の心とこしへ動かぬが^{あめづち}こと

一八七六～一九五七 岡山県津山に生まれる。本名八郎。歌人、国文学者、かな書道家として偉大な業績を残している。書風は「粘葉本和漢朗詠集」を基礎とする。この作品は端正な形と引き締まつた線質で一貫されており右上部から左方に四行美しい連綿で書かれている。落款印は大きく空いた右上部に押されており作品全体を締めている。

■会場案内図



私たち「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

- 展示: 公募・無鑑査・展覧会委員・委嘱役員小品
- 特別展示: 近世大家遺墨・全国書道コンクール優秀作品
- 会場: 国立新美術館 2階展示室 2B・2C・2D
- 会期: 令和7年12月11日(木)~12月22日(月)
- 時間: 10時~18時(入場は17時30分まで)・16日(火)は休館日
最終日は14時終了(入場は13時30分まで)



作品展示室番号一覧

*作品解説は状況により予告なく中止する場合があります。

作 品 解 説		
日 曜 日	11:00~	14:00~
11日 (木)	小泉 移山(漢字)	小林 幸子(かな)
13日 (土)	坂東 保枝(かな)	石川 升心(漢字)
20日 (土)	河合 菖汀(漢字)	奥山裕美子(かな)
書道体験ワークショップ		
「うちわに書こう」		
13日(土) 19日(金)	10:00~16:00 参加無料 ※無くなり次第終了	
役員の先生と会場内を巡る ぶらっとギャラリートーク		
日 曜 日	11:00~	14:00~
12日 (金)	金子 閣亭(漢字)	原田 弘琴(かな)
15日 (月)	杉浦 華桂(かな)	古谷 春峰(漢字)
17日 (水)	稻葉 淳子(かな)	嶋口 一葉(漢字)

会 場 担 当			
日 曜 日	10:00~13:30	13:30~17:00	
11日 (木)	小泉 移山	小林 幸子	
12日 (金)	原田 弘琴	金子 閣亭	
13日 (土)	坂東 保枝	石川 升心	
14日 (日)	片岡 苑雨	小池 白亭	
15日 (月)	古谷 春峰	杉浦 華桂	
16日 (火)	休 館 日		
17日 (水)	嶋口 一葉	稻葉 淳子	
18日 (木)	大野 幸子	福山 行雲	
19日 (金)	大久保樹心	加藤 泰玉	
20日 (土)	河合 菖汀	奥山裕美子	
21日 (日)	平澤 琨子	山下 桐佳	
22日 (月)	吉田 菁風		